

直流電路地絡点携帯検出器 NEW

DSP-F (直流電路地絡点携帯検出器)

DSR-F (直流電路地絡電流携帯変換器)

直流電路の地絡点探索は、おまかせください。
地絡故障箇所を迅速に発見・特定できます。

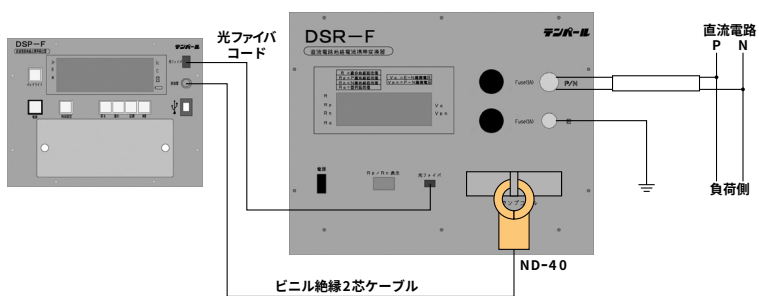
- 設備運転状態（活線）で地絡探索、地絡抵抗・地絡抵抗分故障電流を表示しますので、的確な地絡点探索が可能です。
- 電線束の一括でも一線だけの単線でも、電線をクランプするだけで探索可能です。
- 大型液晶画面に詳細な地絡情報が一括表示されます。
- 表示された地絡情報を、DSP-F本体に記録することができます。
- DSP-F本体のUSBコネクタを利用して、記録した地絡情報データをパソコンに転送できます。

◎DSP-Fを使用するためにはDSR-Fが必要です。
また、DSP-FはDS-MNB、DS-MKA、DS-MK A2の何れかの装置との組み合わせでも使用することができます。



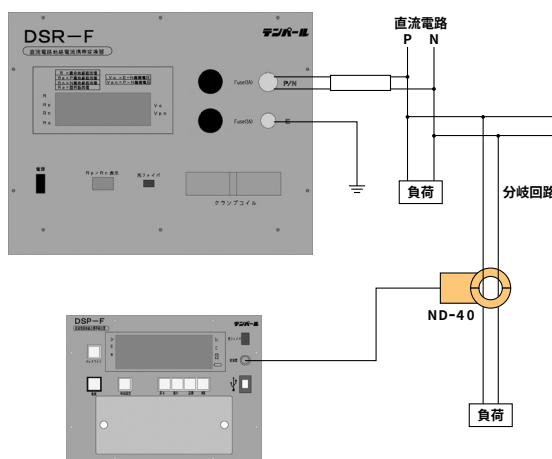
測定概要

1. 測定を開始する前に機器の同期が必要です。下図のように接続します。同期調整は電源スイッチを入れるだけで自動的に行います。地絡検出用の機能接地（直流地絡継電器・64D、地絡表示ランプなど）があればその接地を切り離してください。※



2. 同期調整が終了したらDSP-Fを切り離しクランプ式の検出器ND-40により各分岐回路を測定します。（測定例図参照）液晶ディスプレイに表示される測定値を確認しながら地絡点を見つけます。

測定例



3. 連続探索可能時間は、同期調整後およそ1時間です。（対地静電容量の状態により変わります。）

◎小型の分割形変流器ND-8（挿入口径φ8）の別売もあります。用途に合わせて、別途ご用命ください。

※機能接地が繋がった状態でも地絡点探索はできますが、地絡検出用機器が誤動作する恐れがあり、探査作業を容易にするためにも、機能接地は切り離すことをお勧めします。